

研究テーマ『 個が生きる学び ~数学的な表現力を高めるために~ 』

○ 年・組 第1学年1組 (34名)、2組 (33名) 第1学年1組2組教室 教科等 (算数)

○ 単元(題材)名 ひきざん

○ 単元目標: 11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10 といくつ」という数の考え方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。	① 数の構成に着目し、11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	① 11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10 といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

○ 単元(題材)の指導と評価の計画 (10 時間)

時間	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	・知① (観察・ノート)		
3 4	前時までの学習を踏まえ、11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。		○思① (観察・ノート)	・態① (観察・タブレット・ノート)
5 (本時) 6	11~18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		○思① (観察・ノート)	
7 ~9	減法の計算能力を伸ばす。	・知① (観察・ノート)		・態① (観察・タブレット・ノート)
10	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ、価値づける。	・知① (観察・ノート)	○思① (観察・ノート)	・態度① (観察・タブレット・ノート)

(本時 5 / 10 時)

○ 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。【思・判・表】

(2) 本時の評価規準

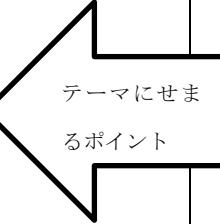
- ・被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作等によって説明している。【思・判・表】（観察・タブレット）

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・教科書：あたらしいさんすう 1（東京書籍）
- ・タブレット（キャンバ）

(4) 本時の学習過程

時 間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び理解の 不十分な児童(生徒)へのてだて等 指導(◇)・支援(○)・学習評価(☆)	評価規準(評 価方法)
5分 導 入	学習の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> おかしが 12 こあります。 3 こたべると、のこりはなんこですか。 </div> 本時のめあてを確認する。	◇モニターに具体物を提示し、興味関心を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> けいさんのしかたをかんがえよう。 </div>	
35分 展 開	見通す(クラス全体で) T「昨日の問題と違う所は?」 C「数字」 C「おかし」 T「同じところは?」 C「のこりをきいている」 T「では、式は?」 C「12-3」 T「昨日までの計算の仕方だと、どこから取っていた?」 C「10のかたまりから」 T「昨日までは10のまとまりからとったけど、他の取り方はあるかな?」 自力解決する。(ノートまたはブロック) ノートに考えを書く。	◇前時との違い、同じに着目させる。 ◇減加法、減々法どちらの考えも認める。 ○絵や文字などでわかりやすく工夫できるように声掛けをする。 ○実際のブロックの方がやりやすい児童にはブロックでするよう促す。ブロックをノートに書いて考えを書くことを伝える。 ☆自分の考えをノートに表している。	•思①(タブレット・観察等)

	<p>ペアで意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方を比べる。 <p>全体で意見交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方を比べる。 <p>自分なりの理解・結論をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方の似ているところ、ちがう所を考える。 ・どちらも10と2にわけているのは同じ。 ・10からとるのか、ばらからとるかが違う。 	<p>◇ノートを提示しながら、自分の考えを話させる。</p> <p>○自分が言えなくてもしっかりと友だちの意見を聞くようにする。</p> <p>◇どのように答えを出したのか、キャンバの付箋機能を使って、クラス全体で共有できるようにする。</p> <p>○自分と同じ考え方や違う考え方を見つけられるように声掛けをする。</p>	
5分 まとめ	<p>振り返りをする。</p> <p>感想やわかったことを発表する。</p> <p>期待する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックをうごかしてけいさんできた。 ・けいさんのしかたをしっかりと考えられた。 ・ばらばらからひいてもけいさんできた。 ・10のかたまりからじやなく、2からひいてもけいさんできた。 	<p>◇めあての考え方を再確認する。</p> <p>◇本時の感想やわかったこと等を発表して学習を振り返る。</p>	

(5)具体的な評価場面における判断のポイント

評価の観点	判断するポイント (A・B)
思考・判断・表現	<p>■十分満足できる (A) と判断するポイント 減加法、減々法を用いて図や絵で表現し、説明している。</p> <p>■おおむね満足 (B) と判断するポイント 図や絵などによって10のまとまりから1位数をひくことができている。</p> <p>■支援が必要と判断される児童への手立て (C) ブロックの操作を教師と一緒にしながら計算の仕方を考えている。</p>